愛知県立大学

教員の自己点検･自己評価

－　自己点検・自己評価報告書 －

２０１９年度

はしがき

愛知県立大学学長　　久冨木原　玲

今日、大学教員は本来的な使命である教育研究に加えて、「第3の使命」としての社会貢献(中教審「我が国の高等教育の将来像」学校教育法83条2項)、さらに近年は全学的な教学マネジメント(中教審教育部会審議まとめ「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」)まで、きわめて広汎な責務を負っています。

さらに大学には、教員が上記の職務を果たしているかどうかについて自己点検・自己評価を実施し、それを公表することによって、社会に対する説明責任を果たす責務が課されています(中教審「我が国の高等教育の将来像」)。

本学は公立大学として、教員の公的な活動について広く県民に公開する責任があることを認識して、かなり早い段階から各教員の「自己点検・自己評価報告書」を作成してきました。また、教学の最高決定機関である教育研究審議会に付置された評価委員会において、自己点検・自己評価の項目や方法を絶えず検証し、各教員の教育・研究、教学マネジメント、社会貢献活動の質向上に努めています。本来、自己点検・自己評価は、各教員が独創的な研究とそれに基づく良質な教育を行うために、教員自身の諸活動を自ら点検し、主体的に省察する営みです。

平成23年度と30年度には、この自己点検・自己評価も含めた大学評価・学位授与機構の認証評価を受けました。23年度については、毎年「自己点検・自己評価書」の作成・公表を行っていることが「優れた点」とされました。さらに30年度は「教員人事評価を組織的に行ない、その結果を教員の処遇に反映させている」として評価されましたが、一方で改善点として、「点検を改善に結びつける教育・研究の質保証体制や方法の整備に弱い面がある」という指摘を受けました。これは「自己点検・自己評価」のみに関するコメントではありませんが、今後、本学が取り組むべき枢要な課題として受け止めています。

「内部質保証」は、近年、認証評価項目として重要視されてきており、今年度は公立大学協会が独自に「大学教育質保証・評価センター」を設立しました。本学もこれに入会し、今後は当該センターとタイ・アップしながら、内部質保証を高めていきたいと考えています。今年度はまず、他大学の取り組みを知るために本学が依頼した講師による教育・研究質向上セミナーを開催するなど、内部質保証体制の構築に向けて検討を始めたところです。

今後は、教員それぞれが、このような課題を真摯に受け止めると共に、大学全体として自主自立的なPDCAサイクルを実施する方法や組織のあり方を見直し、再構築していかなければならないと考えています。

愛知県立大学

教員の自己点検・自己評価

２０１９年度自己点検・自己評価報告書

目　　次

愛知県立大学概要

第１章　自己点検・自己評価の様式 1
１．１　自己点検・自己評価項目 1
１．２　目標と自己評価 2

第２章　自己点検・自己評価結果の概要 5

第３章　教員の自己点検・自己評価データ 11
３．１　外国語学部 11
英米学科 13
ヨーロッパ学科 57
フランス語圏専攻 57
スペイン語圏専攻 77
ドイツ語圏専攻 99
中国学科 119
国際関係学科 143
３．２　日本文化学部 171
国語国文学科 173
歴史文化学科 193
３．３　教育福祉学部 213
教育発達学科 215
社会福祉学科 245
３．４　看護学部 273
看護学科 275
３．５　情報科学部 377
情報科学科 379
３．６　入試・学生支援センター 441
国際交流室 443
３．７　教養教育センター 447
教養教育センター 449
３．８　グローバル実践教育推進室 459
グローバル実践教育推進室 461

おわりに 465

愛知県立大学概要

愛知県立大学は、1947 年、愛知県立女子専門学校として創設されて以来、1966 年の共学・４年制愛知県立大学の創立と外国語学部の開設をへて、1998 年に長久手町に移転し、その際、情報科学部および文学部・外国語学部における３学科を新設し、昼夜開講制の全面実施、大学院国際文化研究科の設置を行ってきた。また、2002 年には情報科学研究科を開設した。

一方、愛知県立看護大学は、1968 年に愛知県立看護短期大学として創設されて以来、1995 年に 4 年制の大学として開学し、1999 年に大学院看護学研究科看護学専攻修士課程を、また、2003 年に看護学部に助産師コースを設置し、2007 年に大学院修士課程に専門看護師コース、2008 年に看護実践センターに認定看護師教育課程（がん化学療法看護、がん性疼痛看護）を設置してきた。

新しい愛知県立大学は、2009 年、「良質の研究に基づく良質の教育」をモットーとし、また、母体となったふたつの大学の良き伝統を継承しつつ、文系、理系双方の学部を擁する複合大学としてスタートした。外国語学部、日本文化学部、教育福祉学部と情報科学部をおく「長久手キャンパス」と看護学部をおく「守山キャンパス」を有する新愛知県立大学は、本年度に至るまで愛知県地域におけるその時々の高等教育のニーズに呼応した教育・研究活動を展開してきている。

・学部・研究科・附置研究所等の構成

(学部)　外国語学部（英米学科、ヨーロッパ学科、中国学科、国際関係学科）
日本文化学部（国語国文学科、歴史文化学科）
教育福祉学部（教育発達学科、社会福祉学科）
看護学部（看護学科）
情報科学部（情報科学科）

(研究科)　国際文化研究科
人間発達学研究科
看護学研究科
情報科学研究科

(関連組織)　入試・学生支援センター
教育支援センター
教養教育センター
学術研究情報センター
地域連携センター
看護実践センター

(研究所)　多文化共生研究所
通訳翻訳研究所
文字文化財研究所
生涯発達研究所
情報科学共同研究所
次世代ロボット研究所

(関連施設)　大学附属図書館
講堂・学術文化交流センター

・　**学生総数及び教職員総数**（令和元年５月１日時点）

（学生総数）：学部　３，３０２名、大学院　２２２名
（教員総数）：２１７名
（教員以外の職員総数）：９７名（職員３６、派遣職員１１、契約５０）

第１章　自己点検・自己評価の様式

１．１　自己点検・自己評価項目

平成２９年度～令和元年度の３カ年の実績等を基にして、以下の項目について本年度の目標・計画に対する自己評価を行った。

Ⅰ　研究活動　（ウェイト　%）
○ 研究課題
○ 学界動向と研究課題の関係
○ 目標・計画
○ 過去３年間の研究業績（特許なども含む）
○ 科学研究費補助金等への申請状況、交付状況等（学内外）
○ 自己評価

Ⅱ　教育活動　（ウェイト　%）
○ 目標・計画
○ 専門教育科目（講義・演習）
○ 一般教育科目（講義・演習）
○ 大学院授業科目
○ 論文指導・研究指導
○ 自己評価

Ⅲ　大学運営　（ウェイト　%）
○ 目標・計画
○ 学内委員など
○ 自己評価

Ⅳ　社会貢献　（ウェイト　%）
○ 目標・計画
○ 学会活動など
○ 地域連携・地域貢献など
○ 自己評価

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流など）

Ⅵ　総括（リフレクションを含む）

１．２　目標と自己評価

本年度も前年度の書式を継承し、年度はじめに目標・計画を記入し、報告書作成時に同一シートに結果と自己評価を追記する方法とした。また、自己評価について、３通りの文言のいずれかでまとめることにより客観性を持たせた。十分でない場合は必要に応じて改善策を記入することとした。以下に自己評価の項目を示す。

＜目標・計画、ウェイト＞
年度はじめに**目標・計画**および**ウェイト**（合計が 100%）を記入し、委員に提出する。

＜自己評価＞
研究活動、**教育活動**の自己評価では、理由を記すとともに最後は下記のいずれかの文言でまとめ、「あまり達成できなかった」の場合は、その後に改善策を書くこと。「おおむね達成した」の場合は、改善策があれば書くこと。

・目標を十分達成した。
・おおむね目標を達成した。
・目標をあまり達成できなかった。

大学運営の自己評価では、理由を記すとともに、下記のいずれかの文言でまとめ、「あまり貢献できなかった」の場合は、その後に改善策を書くこと。「おおむね貢献した」の場合は、改善策があれば書くこと。

・大学運営に十分貢献した。
・大学運営におおむね貢献した。
・大学運営にあまり貢献できなかった。

社会貢献の自己評価では、理由を記すとともに、下記のいずれかの文言でまとめ、「あまり貢献できなかった」の場合は、その後に改善策を書くこと。「おおむね貢献した」の場合は、改善策があれば書くこと。

・社会に十分貢献した。
・社会におおむね貢献した。
・社会にあまり貢献できなかった。

＜総括＞
全体の総括では、過年度の成果・課題をふまえて、リフレクション（教員自身の振り返り）を意識した記述に努めること。

自己点検自己評価の妥当性を高めるため、昨年度に引き続き、以下の項目について本人以外（各学部で選出）の複数名体制で形式面のチェックをし、満足しない場合は修正を依頼した。

○　**目標・計画**
・目標が記述してあるか
・目標に対して具体的な計画が記述してあるか

○　**研究業績**、**教育業績**、**学内委員**、**学会活動**、**社会貢献**など
・具体的に記述してあるか

○　**自己評価**
・目標・計画の達成度等を含め、実績を基に自己評価されているか
・「十分貢献/達成した」、「おおむね貢献/達成した」、「あまり貢献/達成できなかった」のいずれかでまとめられているか
・「あまり貢献/達成できなかった」の場合は、その後に改善策などが書かれているか

○　**総括**
・リフレクションが含まれているかどうか

前年度に引き続き、自己点検自己評価の妥当性を高めるため、自己点検自己評価の各項目について本人以外（各学部で選出）の複数名体制（表１-１）で形式面をチェックし、チェック事項の条件を満足しない場合は修正を依頼した。

表1－1　チェック体制

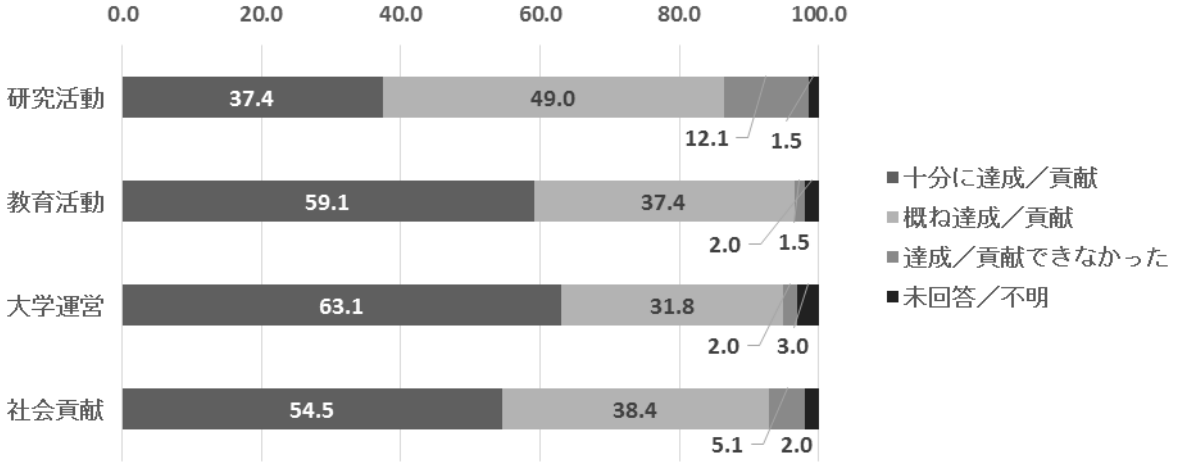
学部	体制	備考
外国語学部	学部評価委員＋５名	
日本文化学部	学部評価委員＋１名	
教育福祉学部	学部評価委員＋１名	
看護学部	学部評価委員＋７名	学部に自己点検評価委員会を組織。
情報科学部	学部評価委員＋３名	
教養教育センター	センター長・副センター長	

第２章　自己点検・自己評価結果の概要

自己点検・自己評価のうち、研究活動、教育活動、大学運営、社会貢献についての自己評価における達成度（十分達成／貢献、おおむね達成／貢献、達成／貢献できなかった）の割合を以下に示す。

２．１　大学全体（５学部）の達成度

１　項目別割合



２　実数（198 名）

項目	十分に達成／貢献	概ね達成／貢献	達成／貢献できなかった	未回答／不明
研究活動	74	97	24	3
教育活動	117	74	3	4
大学運営	125	63	4	6
社会貢献	108	76	10	4

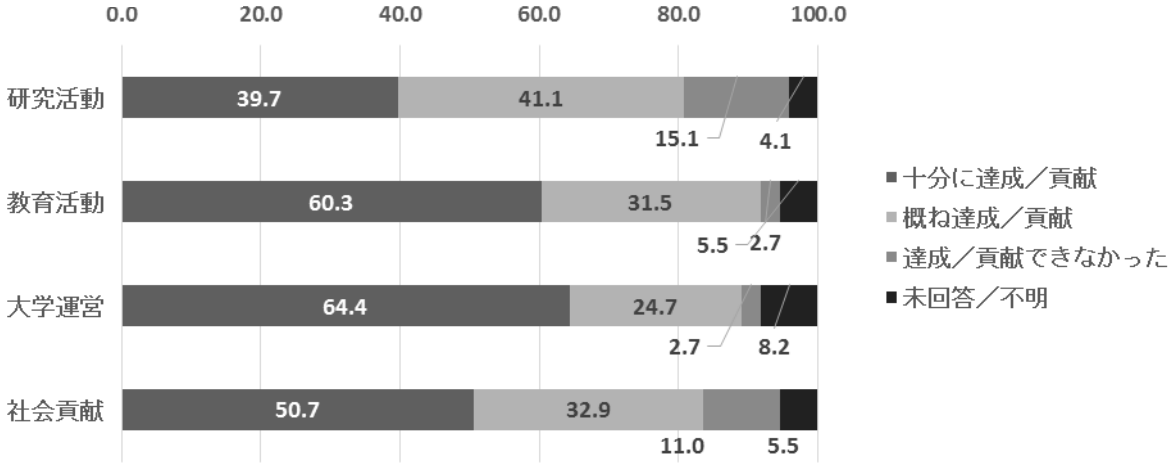
図 2-1　項目別自己評価結果（大学全体（５学部））

全学では、「研究活動」「教育活動」「大学運営」「社会貢献」の４項目のうち、「十分に達成／貢献」または「概ね達成／貢献」と回答している割合が最も高かった項目は、昨年度と同様、「教育活動」（96.5%）であり、僅差で「大学運営」（94.9%）が続く。これは数値的にも昨年度とほぼ同様である。「十分に達成／貢献」に限定すると、「大学運営」が 63.1％と高く、昨年度と比べて 2.6%向上している。一方、「研究活動」については「十分に達成／貢献」と評価している割合が他の項目より 21%ほど低く、「概ね達成／貢献」を加えても 8%ほど低い値となっている。これは、研究活動に費やせる時間が十分に確保できていないためと推測される。例年の傾向とはいえ、バランスよく改善していくことが望まれよう。詳しくは、次ページ以降の各学部の分析を参照されたい。

以下、各学部の概要を示す。

２．２　外国語学部

１　項目別割合



２　実数（73 名）

項目	十分に達成／貢献	概ね達成／貢献	達成／貢献 できなかった	未回答／不明
研究活動	29	30	11	3
教育活動	44	23	2	4
大学運営	47	18	2	6
社会貢献	37	24	8	4

図 2-2　項目別自己評価結果（外国語学部）

学部概要

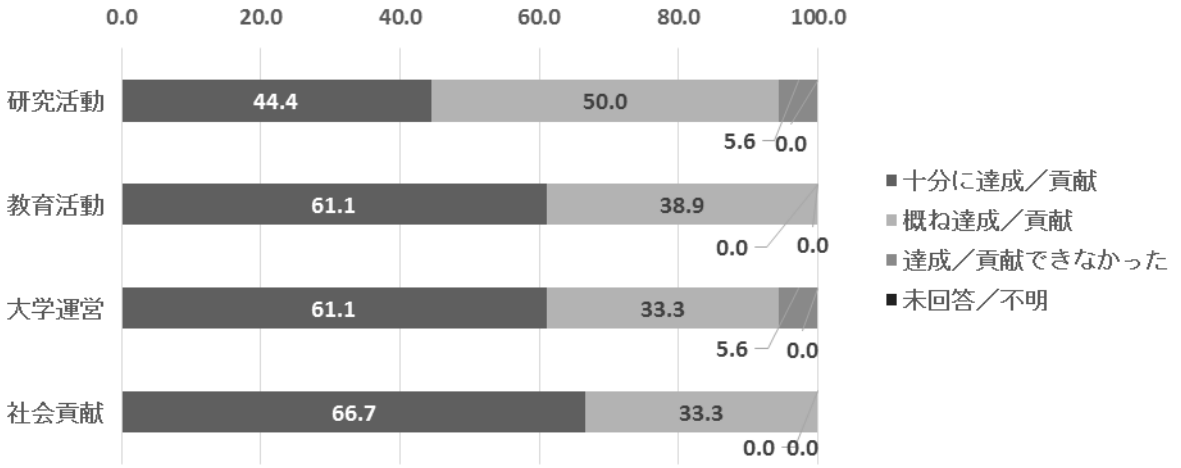
傾向としては、例年と同じで、大学運営、教育活動において「十分に貢献した」「十分に達成した」が多く（それぞれ 64.4%と 60.3%）、「概ね貢献した」「概ね達成した」とあわせて 90%前後になる。「あまり貢献／達成できなかった」は 3%と低い。これらと比べると研究活動は評価が若干低く、「十分達成できた」が 40%、逆に「あまり達成できなかった」が 15%もある。社会貢献についても「十分貢献した」の割合がやや低く（50.7%）、「あまり貢献できなかった」の割合がやや高い（11.0%）が、研究活動ほどではない。これも例年通りである。

各教員の記述を見ると、研究活動に十分な時間と労力を割くことがむずかしいことの背景が伺える。教育活動、大学運営に時間がかかっていることがあるようだ。時間配分を工夫したい、研究・教育・大学運営のバランスをとりたい、事務的な仕事のやり方に改善が必要である、という記述が複数ある。また、着任したばかりの教員は授業の準備に時間がかかって、研究に時間が割けないということもあるようだ。他に、健康状態が良くなかった、家族の介護があった、OA 機器更新に労力を取られた、学部改革の WG に関わったため時間がとられた、などの個別事情も記載されていた。いろいろな事情で時間が制約された状況にあっても、教育活動にはできるだけ時間と労力を割いているようで、結果として研究活動が犠牲になっている様子が伺える。もちろん、教育活動や大学運営で忙しい中でも研究成果をあげている教員もいる。

大学運営の「不明・未回答」には、外国人教員など、大学運営業務を担っていない教員の分が含まれる。

２．３　日本文化学部

１　項目別割合



２　実数（18 名）

項目	十分に達成／貢献	概ね達成／貢献	達成／貢献できなかった	未回答／不明
研究活動	8	9	1	0
教育活動	11	7	0	0
大学運営	11	6	1	0
社会貢献	12	6	0	0

図 2-3　項目別自己評価結果（日本文化学部）

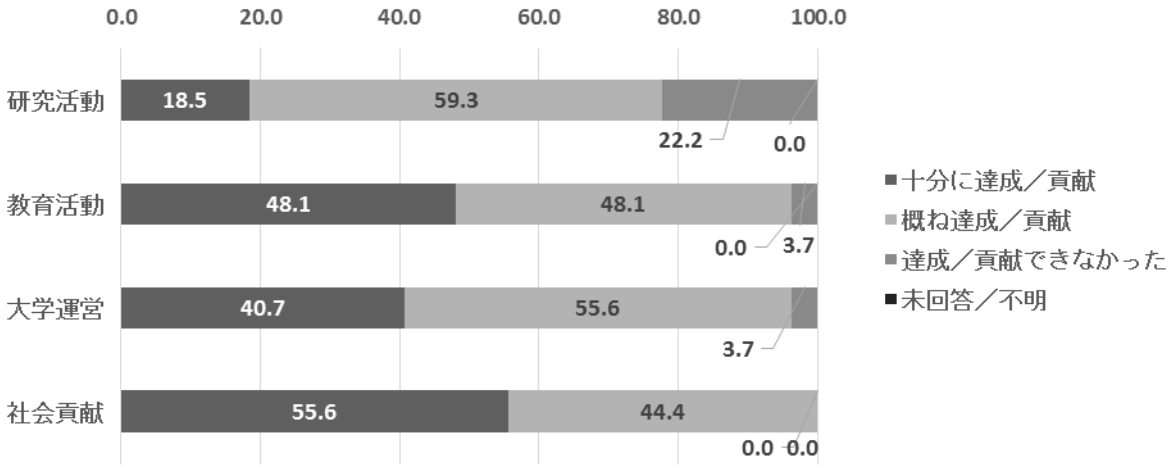
学部概要

学部教員の大部分が、四つの項目に関して「十分」または「概ね」達成・貢献できていると評価している。この傾向は、過去数年間にわたり続いており、本学部では、各教員がそれぞれに各評価項目に目配りしつつ取り組んでいると考えてよいであろう。本年度達成できなかったとある評価も、健康面や学外研究期間中といった理由のあるものであり、一過性のものである。また、社会貢献・教育活動・大学運営の項目よりも研究活動の項目において評価が低い点には、各教員の自己の研究における達成に対する厳しさがあらわれていると見ている。

大学運営・社会貢献の項目の評価の高さは、学部教員の多様な取り組みを表すが、それはまた、教員の真摯さゆえに教員業務が歯止めなく増える危険性もはらみ、健康面への負荷が現実的な心配となる。社会に説明され示される大学全体の活動は、個々の教員の主体的な研究活動から、その果実としてのよりよい教育活動へ、そして社会貢献へと、研究活動が基盤となって活性化するものである。教員個人の負担過多の状況が続く中、研究活動への教員の意識の高さを妨げることのない、研究・教育活動をまず行いやすい環境整備が大学の意識、方針としてのぞまれよう。

２．４　教育福祉学部

１　項目別割合



２　実数（27 名）

項目	十分に達成／貢献	概ね達成／貢献	達成／貢献できなかった	未回答／不明
研究活動	5	16	6	0
教育活動	13	13	1	0
大学運営	11	15	1	0
社会貢献	15	12	0	0

図 2-4　項目別自己評価結果（教育福祉学部）

学部概要

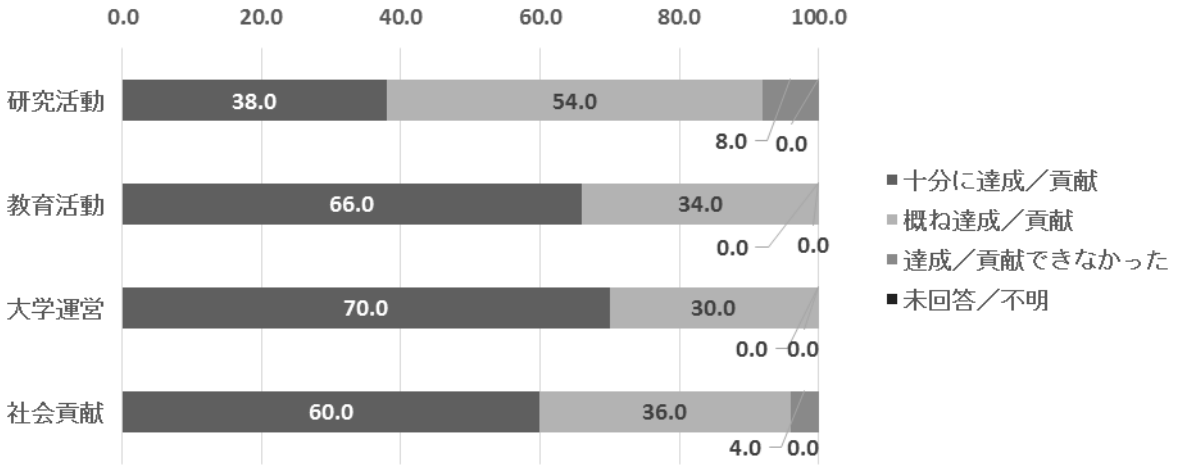
教育活動、大学運営、社会貢献については、例年通り、ほとんどの教員が「十分に達成／貢献」あるいは「概ね達成／貢献」できていると評価している。社会貢献については「貢献できなかった」教員はいない。社会貢献については、昨年同様に「十分に貢献した」教員が最も多く、その割合も僅かだが増加している。教育活動では、授業改善や授業外での学生指導に熱心に取り組んでいる様子が窺える。社会貢献については、学会活動だけでなく、行政機関の各種審議会・委員会等の委員、社会福祉法人や学校の評議員、研修会講師等として、地域で活躍している教員が多い。「総括」では、今年度、社会貢献の機会が増加したとする教員、社会貢献の発展を今後の課題に挙げる教員も複数人おり、全体として、社会貢献に対する意識が高まっているといえる。

一方で、研究活動では「あまり達成できなかった」と評価する教員が増加した（昨年度は３名）。その要因としては、調査先の都合や本人の体調等の問題の他に、大学運営業務の増加により、研究活動に費やせる時間が十分に取れないことが挙げられている。「十分に達成」「概ね達成」という回答の中にも、「総括」欄で、研究活動の時間の捻出が課題に挙げられている。今年度は大学運営体制が新しくなったことも影響したのかもしれないが、大学運営や社会貢献に労力が割かれることで、研究活動や教育活動にしわ寄せが行っていると考えられる。

全体としては、いずれの項目も、ほとんどの教員が「十分に達成／貢献」あるいは「概ね達成／貢献」したと評価しており、研究活動、教育活動、大学運営、社会貢献の全般にわたって、意欲的に取り組んできたといえる。また、「あまり貢献／達成できなかった」「概ね貢献／達成した」点についても、各教員のリフレクションにおいて、具体的な改善策や改善への意欲が窺えた。

２．５　看護学部

１　項目別割合



２　実数（50 名）

項目	十分に達成／貢献	概ね達成／貢献	達成／貢献できなかった	未回答／不明
研究活動	19	27	4	0
教育活動	33	17	0	0
大学運営	35	15	0	0
社会貢献	30	18	2	0

図 2-5　項目別自己評価結果（看護学部）

学部概要

研究活動では、92.0%の教員が目標を十分に、あるいは概ね達成できたと評価し、昨年度の値を上回った。このことは論文発表や学会発表の数からも裏付けられる。一方、達成できなかったとの回答でも、自己の目標設定に対して厳しく評価した結果と解釈できるものが多い。以上から、看護学部は活発に研究活動し、目標をほぼ達成したと評価する。

教育活動では、全員が十分に、あるいは概ね目標を達成できたと評価した。看護学部は必修の授業科目に加えて多くの演習や実習指導を行うが、全員が強い責任感と熱意をもって教育活動に取り組んだ結果と評価する。

大学運営でも、全員が十分に、あるいは概ね目標を達成できたと回答した。全教員が委員として何らかの委員会に所属しているが、実際にそこで活発な活動が行われた結果であると評価する。

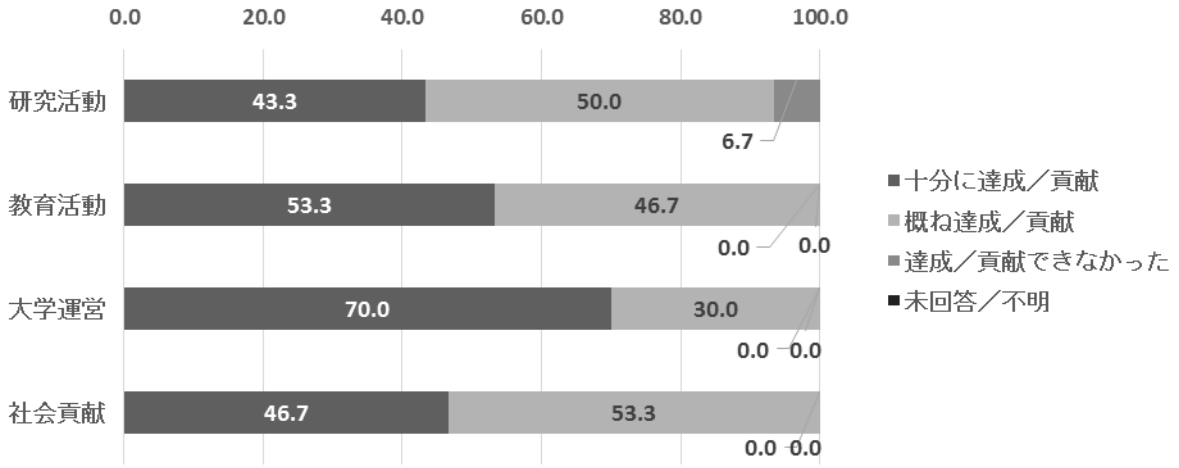
社会貢献では、96.0%の教員が十分に、あるいは概ね目標を達成できたと評価した。この値は昨年より上がっており、ほとんどの教員が学外での学会運営、地域住民の健康増進活動、臨床看護師の研究支援等を意識して積極的に活動している結果と評価する。

教員自身によるリフレクションでは、目標達成に不足していたと思われる部分についての分析と改善策が記されており、活動全般に対する真摯な姿勢が伺われた。

これらの評価を総合すると、前年度と比べて目標達成度の数字が全て上昇している項目が多かったことからも、2019 年度の看護学部は、研究、教育、大学運営、社会貢献の全般にわたって活発に活動し、ほぼ目標を達成できたと判断できる。

２．６　情報科学部

１　項目別割合



２　実数（30 名）

項目	十分に達成／貢献	概ね達成／貢献	達成／貢献できなかった	未回答／不明
研究活動	13	15	2	0
教育活動	16	14	0	0
大学運営	21	9	0	0
社会貢献	14	16	0	0

図 2-6　項目別自己評価結果（情報科学部）

学部概要

研究活動においては、２名の教員が、目標を達成できなかったと評価している。これは体調不良および学部内委員会の要職による。昨年度に比較して達成度がやや下方に移動しているが、研究に関しては、今後への意欲とも解釈できる。一方で、大学運営に関しては昨年度に引き続き２／３以上の教員が十分に達成していると評価しており、最も高い。次いで教育活動、社会貢献と続く。社会貢献に関しては昨年度より減退しているが、変動はやむを得ないと考えられる。リフレクションという用語に関して直接言及しているのは１件であったが、全体を通して振り返りが無ければ記述できない内容が殆どであり、学部全体としてリフレクションは十分行われていると考えられる。

第３章　教員の自己点検・自己評価データ（教員名簿、教員の自己点検・自己評価結果）

３．１　外国語学部

●英米学科

△阿南　東也
○池田　周・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
○石原　覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
○榎本　洋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
○オオカドゴーフ・デミエン・・・・・・・・・ 20
○大森　裕實・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
○奥田　泰広・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
○オムラティグ・ロサ・・・・・・・・・・・・ 26
○カステヤーノ・ワキーン・エマニュエル・・ 28
○梶原　克教・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
○木全　滋・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
○熊谷　吉治・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
○袖川　裕美・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
○瀧内　陽・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
○中村　不二夫・・・・・・・・・・・・・・・ 40
○久田　由佳子・・・・・・・・・・・・・・・ 42
○広瀬　恵子・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
○ヘイスティングス・クリストファー・ロバート・・・46
○正木　慶介・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
○三原　穂・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
○村山　瑞穂・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
○森田　久司・・・・・・・・・・・・・・・・ 54

●ヨーロッパ学科　フランス語圏専攻

○天野　知恵子・・・・・・・・・・・・・・ 58
○伊藤　滋夫・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
○岸本　聖子・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
○佐藤　久美子・・・・・・・・・・・・・・ 64
△白谷　望
○ダレン・モルガン・・・・・・・・・・・・ 66
○中田　晋自・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
○長沼　圭一・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
○原　潮巳・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
○モラール・フランク・・・・・・・・・・・ 74
△野内　美子

●ヨーロッパ学科　スペイン語圏専攻

○糸魚川　美樹・・・・・・・・・・・・・・・ 78
○江澤　照美・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
○奥野　良知・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
○小池　康弘・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
○竹中　克行・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
○田邊　まどか・・・・・・・・・・・・・・・ 88
○谷口　智子・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
○ピナル・ガルシア・アレックス・・・・・・ 92
○ﾛﾍﾟｽ･ﾛﾄﾞﾘｹﾞｽ・ﾌﾗﾝｼｽｺ・ﾊﾋﾟｴﾙ・・・・・ 94
○渡会　環・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96

●ヨーロッパ学科　ドイツ語圏専攻

○アーリヒ・オリバー・・・・・・・・・・・ 100
△池田　利昭
○今野　元・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
○櫻井　健・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
○シュトラーラ・ヤン・ゲリット・・・・・・ 106
○杉原　周治・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
○人見　明宏・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
○平井　守・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
○山本　順子・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
○四ツ谷　亮子・・・・・・・・・・・・・・ 116

●中国学科

○袁　暁今・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
○王　幼敏・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
○川尻　文彦・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
○工藤　貴正・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
○黄　東蘭・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
○小座野　八光・・・・・・・・・・・・・・ 130
○鈴木　隆・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
○張　金平・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
○月田　尚美・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
○西野　真由・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
○楊　明・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140

●国際関係学科

○秋田　貴美子・・・・・・・・・・・・・・・ 144	△福岡　千珠
○東　弘子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146	○藤倉　哲郎・・・・・・・・・・・・・・・ 160
○カールソン・アンドレア・・・・・・・・・ 148	○ポープ・エドガー・ライト・・・・・・・ 162
○亀井　伸孝・・・・・・・・・・・・・・・ 150	○宮谷　敦美・・・・・・・・・・・・・・・ 164
○木下　郁夫・・・・・・・・・・・・・・・ 152	○矢野　順子・・・・・・・・・・・・・・・ 166
○髙阪　香津美・・・・・・・・・・・・・・ 154	○山口　雅生・・・・・・・・・・・・・・・ 168
○高橋　慶治・・・・・・・・・・・・・・・ 156	△山下　朋子
○半谷　史郎・・・・・・・・・・・・・・・ 158	

○：提出、△：長期休暇、10 月着任、転出などの理由で提出不要

３．２　日本文化学部

●国語国文学科	●歴史文化学科
○伊藤　伸江・・・・・・・・・・・・・・・・ 174	○井戸　聡・・・・・・・・・・・・・・・・・ 194
○久保薗　愛・・・・・・・・・・・・・・・・ 176	○大塚　英二・・・・・・・・・・・・・・・・ 196
○洲脇　武志・・・・・・・・・・・・・・・・ 178	○上川　通夫・・・・・・・・・・・・・・・・ 198
○中根　千絵・・・・・・・・・・・・・・・・ 180	○川畑　博昭・・・・・・・・・・・・・・・・ 200
○福沢　将樹・・・・・・・・・・・・・・・・ 182	○柴田　陽一・・・・・・・・・・・・・・・・ 202
○三宅　宏幸・・・・・・・・・・・・・・・・ 184	○中西　啓太・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
○宮崎　真素美・・・・・・・・・・・・・・・ 186	○服部　亜由未・・・・・・・・・・・・・・・ 206
○本橋　裕美・・・・・・・・・・・・・・・・ 188	○樋口　浩造・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
○若松　伸哉・・・・・・・・・・・・・・・・ 190	○丸山　裕美子・・・・・・・・・・・・・・・ 210

○：提出、△：長期休暇、10 月着任、転出などの理由で提出不要

３．３　教育福祉学部

●教育発達学科	●社会福祉学科
○伊藤　稔明・・・・・・・・・・・・・・・・ 216	○宇都宮　みのり・・・・・・・・・・・・・ 246
○稲嶋　修一郎・・・・・・・・・・・・・・ 218	○大賀　有記・・・・・・・・・・・・・・・ 248
○内田　純一・・・・・・・・・・・・・・・・ 220	○田川　佳代子・・・・・・・・・・・・・・ 250
○大貫　守・・・・・・・・・・・・・・・・・ 222	○湯　海鵬・・・・・・・・・・・・・・・・ 252
○葛西　耕介・・・・・・・・・・・・・・・ 224	○中尾　友紀・・・・・・・・・・・・・・・ 254
○久保田　貢・・・・・・・・・・・・・・・ 226	○中藤　淳・・・・・・・・・・・・・・・・ 256
△瀬野　由衣	○野田　博也・・・・・・・・・・・・・・・ 258
○高橋　範行・・・・・・・・・・・・・・・ 228	○橋本　明・・・・・・・・・・・・・・・・ 260
○田村　佳子・・・・・・・・・・・・・・・ 230	○松宮　朝・・・・・・・・・・・・・・・・ 262
○藤原　智也・・・・・・・・・・・・・・・ 232	○村田　一昭・・・・・・・・・・・・・・・ 264
○堀尾　良弘・・・・・・・・・・・・・・・ 234	○山本　かほり・・・・・・・・・・・・・・ 266
○丸山　真司・・・・・・・・・・・・・・・ 236	○吉川　雅博・・・・・・・・・・・・・・・ 268
○三山　岳・・・・・・・・・・・・・・・・ 238	○渡邊　かおり・・・・・・・・・・・・・・ 270
○山本　理絵・・・・・・・・・・・・・・・ 240	
○渡邉　眞依子・・・・・・・・・・・・・・ 242	

○：提出、△：長期休暇、10 月着任、転出などの理由で提出不要

３．４　看護学部

●看護学科

○天木　伸子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 276
△天草　百合江
○石光　芙美子・・・・・・・・・・・・・・・・ 278
○牛島　佳代・・・・・・・・・・・・・・・・・ 280
○宇城　令・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 282
○大原　良子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 284
○岡田　悦政・・・・・・・・・・・・・・・・・ 286
○岡本　和士・・・・・・・・・・・・・・・・・ 288
○尾沼　奈緒美・・・・・・・・・・・・・・・・ 290
○籠　玲子・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 292
○賀沢　弥貴・・・・・・・・・・・・・・・・・ 294
○片岡　純・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 296
○片岡　由美子・・・・・・・・・・・・・・・・ 298
○片平　正人・・・・・・・・・・・・・・・・・ 300
○勝村　友紀・・・・・・・・・・・・・・・・・ 302
○加藤　宏公・・・・・・・・・・・・・・・・・ 304
○金澤　美緒・・・・・・・・・・・・・・・・・ 306
○神谷　摂子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 308
○汲田　明美・・・・・・・・・・・・・・・・・ 310
○黒川　景・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 312
○小松　万喜子・・・・・・・・・・・・・・・・ 314
○近藤　三由希・・・・・・・・・・・・・・・・ 316
○佐々木　久美子・・・・・・・・・・・・・・・ 318
○佐藤　美紀・・・・・・・・・・・・・・・・・ 320
○柴　邦代・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 322
○清水　宣明・・・・・・・・・・・・・・・・・ 324
○下園　美保子・・・・・・・・・・・・・・・・ 326
○杉山　希美・・・・・・・・・・・・・・・・・ 328
○鈴木　幸子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 330
○曽田　陽子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 332
○田上　恭子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 334
○戸田　由美子・・・・・・・・・・・・・・・・ 336
○中戸川　早苗・・・・・・・・・・・・・・・・ 338
○西尾　亜理砂・・・・・・・・・・・・・・・・ 340
○西岡　裕子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 342
○服部　淳子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 344
○廣瀬　会里・・・・・・・・・・・・・・・・・ 346
○深田　順子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 348
○藤野　あゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・ 350
○古田　加代子・・・・・・・・・・・・・・・・ 352
○松岡　広子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 354
○三尾　亜喜代・・・・・・・・・・・・・・・・ 356
○箕浦　哲嗣・・・・・・・・・・・・・・・・・ 358
○百瀬　由美子・・・・・・・・・・・・・・・・ 360
○森田　恵美子・・・・・・・・・・・・・・・・ 362
○柳澤　理子・・・・・・・・・・・・・・・・・ 364
○山田　浩雅・・・・・・・・・・・・・・・・・ 366
○横山　加奈・・・・・・・・・・・・・・・・・ 368
○吉田　彩・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 370
△米川　美那
○米田　雅彦・・・・・・・・・・・・・・・・・ 372
○渡邉　直美・・・・・・・・・・・・・・・・・ 374

○：提出、△：長期休暇、10 月着任、転出などの理由で提出不要

３．５　情報科学部

●情報科学科

○伊藤　正英・・・・・・・・・・・・・・・・ 380	○小林　邦和・・・・・・・・・・・・・・・・ 410
○入部　百合絵・・・・・・・・・・・・・・・ 382	○佐々木　敬泰・・・・・・・・・・・・・・・ 412
○臼田　毅・・・・・・・・・・・・・・・・・ 384	○ジメネス・ラム・フェリックス・アウグスト・・ 414
○大久保　弘崇・・・・・・・・・・・・・・・ 386	○代田　健二・・・・・・・・・・・・・・・・ 416
○太田　淳・・・・・・・・・・・・・・・・・ 388	○鈴木　拓央・・・・・・・・・・・・・・・・ 418
○奥田　隆史・・・・・・・・・・・・・・・・ 390	○田坂　浩二・・・・・・・・・・・・・・・・ 420
○小栗　宏次・・・・・・・・・・・・・・・・ 392	○田　学軍・・・・・・・・・・・・・・・・・ 422
○小畑　建太・・・・・・・・・・・・・・・・ 394	○辻　孝吉・・・・・・・・・・・・・・・・・ 424
○何　立風・・・・・・・・・・・・・・・・・ 396	○戸田　尚宏・・・・・・・・・・・・・・・・ 426
○粕谷　英人・・・・・・・・・・・・・・・・ 398	○永井　昌寛・・・・・・・・・・・・・・・・ 428
○金森　康和・・・・・・・・・・・・・・・・ 400	○平尾　将剛・・・・・・・・・・・・・・・・ 430
○神谷　直希・・・・・・・・・・・・・・・・ 402	○村上　和人・・・・・・・・・・・・・・・・ 432
○神谷　幸宏・・・・・・・・・・・・・・・・ 404	○山村　毅・・・・・・・・・・・・・・・・・ 434
○神山　斉己・・・・・・・・・・・・・・・・ 406	○山本　晋一郎・・・・・・・・・・・・・・・ 436
○河中　治樹・・・・・・・・・・・・・・・・ 408	○吉岡　博貴・・・・・・・・・・・・・・・・ 438

○：提出、△：長期休暇、10 月着任、転出などの理由で提出不要

３．６　入試・学生支援センター

●国際交流室	
○桑村　昭・・・・・・・・・・・・・・・・ 444	

○：提出、△：長期休暇、10 月着任、転出などの理由で提出不要

３．７　教養教育センター

●教養教育センター	
○クリストファー　ワイル・・・・・・・・・ 450	○ブルノティ・ジョシュア・・・・・・・・・ 454
○ジョーンズ・クレイグ　・・・・・・・・・ 452	○フローレス　アナ・マリア　・・・・・・ 456

○：提出、△：長期休暇、10 月着任、転出などの理由で提出不要

３．８　グローバル実践教育推進室

●グローバル実践教育推進室	
○ハック・ブレッド・アンソニー・・・・・ 462	

○：提出、△：長期休暇、10 月着任、転出などの理由で提出不要

おわりに

評価委員会委員長　村上和人

本年度は第三期の中期目標・中期計画の初年度であり、大きな節目の年であったといえる。第三期中期目標・中期計画に書かれているいないを問わず、大学の本質的な役割を果たしていくためには、社会からの要請を各教員が認識し、主体的な行動へと変換していくことが重要である。教育力、研究力の向上を実現していくための組織的な取り組みの一つとして、自己点検・自己評価報告書作成の作成は、教員個人が1年間の仕事を総括し、次の課題を確認するためのよい機会であり、平成18年（2006年）以降、継続的に取り組んでいる。本年度で14年目を迎えたが、継続的に進めてきた本事業が形骸化することなく、質保証体制の構築など次のステップに向けての礎となることが望まれる。

最後に、教育、研究、大学運営、社会貢献の何れも忙しい時期にもかかわらず全員に協力いただけたことに紙面を借りて感謝申し上げたい。

令和元年度評価委員会委員名簿

	学部等	委員名
学部選出の教育研究審議会委員	外国語学部	広瀬　恵子
	日本文化学部	中根　千絵
	教育福祉学部	湯　　海鵬
	看護学部	服部　淳子
	情報科学部	村上　和人（委員長）
各学部選出委員	外国語学部	月田　尚美
	日本文化学部	伊藤　伸江
	教育福祉学部	伊藤　稔明
	看護学部	片平　正人
	情報科学部	戸田　尚宏
事務部門長		鈴木　雅仁
守山キャンパス長		丸山　勝
オブザーバー	副学長	丸山　真司

愛知県立大学
教員の自己点検・自己評価
－ 自己点検・自己評価報告書 －

令和２年３月発行

編集・発行
愛知県立大学　教育研究審議会　評価委員会

〒４８０－１１９８（個別番号）
愛知県長久手市茨ケ廻間１５２２番３

TEL　０５６１－６４－１１１５
FAX　０５６１－６４－１１０１
E-mail　soumuka@puc.aichi-pu.ac.jp